2006/4/14

UPS サービスの設定

1．概要

SecurityEye 本体で UPS サービスを使用する手順を示します。
SecurityEye で UPS サービスを使用することにより、停電時等にユーザは安全にシステムを終了することができます。

2．手順

・「WindowsXP」を例に説明します。

① コントロールパネルの「電源オプション」を選択します。

図 1

② 図 1 の「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが開くので、「UPS」タブを選択し、「選択」ボタンをクリックします。
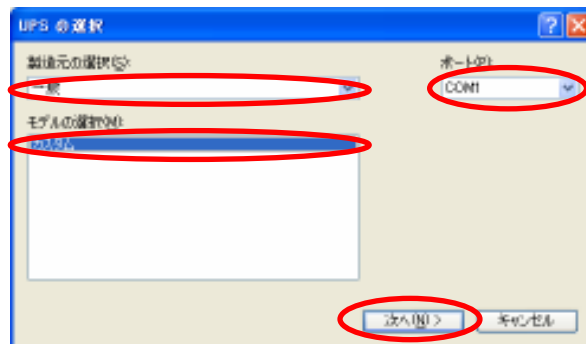
図2

③ 図２の UPS の選択ウィンドウで「製造元の選択」で「一般」を、「モデルの選択」で「カスタム」を、「ポート」でオプションケーブルを使用して接続する COM ポートの番号を指定し、「次へ」をクリックします。
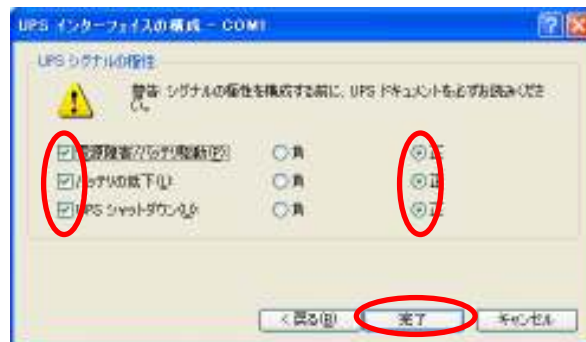
図3

④ 図３の UPS インターフェースの構成で UPS 信号の属性を設定します。
「電源障害／バッテリ駆動」「バッテリの低下」「UPS シャットダウン」にチェックを入れ、
全て「正」を選択して、「完了」をクリックします。

図４

⑤ 図４の「電源オプションのプロパティ」ウィンドウに戻るので、今度は「構成」ボタンをクリックします。
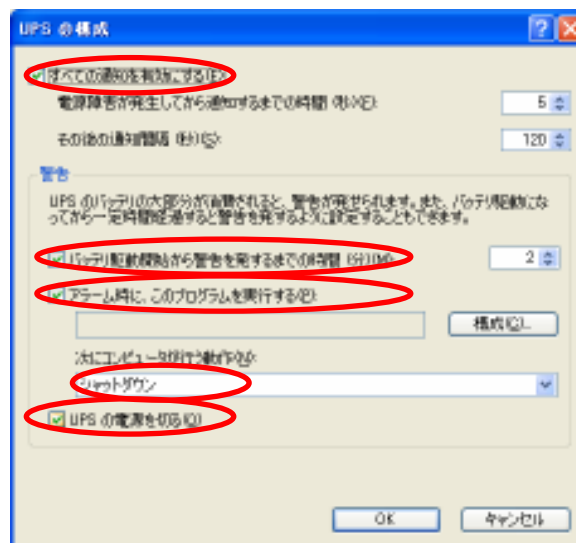
図５

⑥ 図５の「UPS の構成」ウィンドウが開くので、通知時間の設定を行います。
・「全ての通知を有効にする」にチェックを入れ、「電源障害が発生してから通知するまでの時間」と「その後の通知間隔」は、お客様の環境に合わせて時間を設定して下さい。
・「バッテリ駆動開始から警告を発するまでの時間」にチェックを入れ、お客様の環境に合わせて時間を設定してください。
・「アラーム時に、このプログラムを実行する」にチェックを入れます。
・「次にコンピュータが行う動作」で「シャットダウン」を選択します。
・「UPS の電源を切る」にチェックを入れ「OK」をクリックします。

⑦ 最後に「電源のプロパティ」ウィンドウで「適用」をクリックして終了です。

3. 使用例

富士通コワーコ「UPS SCU501A」を使用する場合、SecurityEye システムとの接続は
接点ケーブル「NOC-19」をお使いください。

UPS サービスを使用するにあたり、初期設定で無効となっている「シャットダウン停止機能」を有効にする
必要があります。お使いの UPS の取扱説明書を参照し、有効に設定して下さい。